

会 議 録

1 会議名

令和6年度第4回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・自主的審議事項の今後の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年9月17日（火）午後6時30分から午後8時5分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 磯田一裕（会長）、田中美佳（副会長）、古澤悦雄（副会長）、青山藏吉、
稲川真智子、鴨井辰典、関澤隆一、関谷照子、田中 実、田中由美子、
古谷信人、保坂邦之、増田和昭、丸山岳人（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶

【近藤副所長】

会議に移る前に、今回初出席となる丸山委員から、一言自己紹介をお願いしたい。

【丸山委員】

- ・自己紹介

【磯田会長】

- ・会議録の確認：田中実委員、田中由美子委員に依頼

議題【自主的な審議】自主的審議事項の今後の進め方について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.1に基づき説明

【磯田会長】

前回の協議会では、特に新しい委員の皆さんから、協議会の中で議論したいテーマや、日頃問題意識を持っていることについてお話をお聞きして、委員間で共有してきたところである。

本日は、前回欠席された委員の皆さんからも、同じくお話をいただいて、協議会の議題等の中に盛り込むなどの検討を行っていききたい。

資料No.1は、前回話が出た内容だが、これとかぶってもいいし、このテーマに限らずいろいろな側面からお考えをお聞きできればありがたい。

それでは、前回欠席の方から名簿順にお考えをお聞きしたい。

【稲川委員】

日本のちょうど真ん中に位置するこの上越市を、私は本当に誇りに思っている。歴史深く、食もおいしいし、山もあり海もあり、本当に素晴らしいところだと思うが、そこがいかされていないということが、40年間生きてきて感じているところである。年を重ねるごとに、ますますその思いは強くなってきている。

五智国府については、歴史深くて神社仏閣がたくさんあるが、個々に皆さん頑張っておられるとは思いますが、連携があまり取れていないように感じる。また、高田城址公園と同じような規模の五智公園が、うまく皆さんに知られていないところがすごく残念だと思う。

今回、佐渡金山が世界遺産となったので、そこをうまく活用して、直江津駅や上越妙高駅から直江津港まで誘導するようになれば、佐渡に渡る前に直江津をアピールする機会にできるのではないかと思った。

では何をするのかと言われても何も浮かばないが、たくさんの直江津の方、上越の方が動いていращることが、住民の皆さんにあまり知られてないのは残念だと思う。

こんなに力を入れておられるので、もっとアピールしていくことができればと思う。

【関澤委員】

私は、五智地区に関して非常に興味がある。例えば五智公園について、第3回直江津区地域協議会で配付された上越市通年観光計画概要の資料の中で、D51を移設するという計画があるようだが、移設することにどうこう言うわけではないが、そのあとは五智公園がますます寂しくなってしまうのではないかと感じてしまう。

それから三八朝市については、私は30年ぐらい前に、天王町に10年ぐらい住んでいた。その頃の三八市は、非常に活気があって、にぎやかだった。それがいつの間にか出店者が少なくなったのか、駐車場の関係もあるのかわからないが、今年に入って行ってみたら随分寂しくなっていた。なんとか昔のような活気を取り戻せないものかと感じている。

また、うみがたりの西側駐車場に、トイレが一つあるとよいと思っている。

【田中由美子委員】

直江津の祇園祭に参加させてもらうことがあり、上越市の伝統的なものの良さや、皆さんの人柄がすごく良くて、「なんて住みやすいところなんだろう。」と感動したのを思い出した。

私は五智公園を育てる会に入らせてもらっている。回覧版で回ってきた「笹刈り」に参加させてもらったのがきっかけで、「こんなに一生懸命やっぴらっしゃる方がおられるんだ。五智公園を守りたい。」と思い参加させてもらっている。役員もさせてもらったが、今は役員を降ろさせてもらった。

ほかにも、上越観光コンベンション協会に入ったり、上越市ファミリーサポートセンターの提供会員になったりしてきた。

こういったものに参加させてもらったことで、いろいろと上越市にはいい仕組みがあることや、素晴らしい会があることなど学ばせてもらった。観光も本当に素晴らしいものがいっぱいあるので、ぜひたくさんの方に楽しんでもらえたらと思い、いろいろな会議に参加させてもらってきた。

地域協議会には、自分の思いを伝えたくて参加させてもらった。

一つは資料No.1には様々な名所があるが、バス会社やタクシー会社等と提携して、いろいろな方から、いろいろなところを楽しんでもらえたらいいのではないかと感じている。

もう一つは、ファミリーサポートセンターは、お子さんを持つ親御さんの支援をする制度だが、高齢者に対しても同じ考えで支援できないかと思った。家族の支援が必要な高齢者がいらっしゃるご家族と、高齢者の支援を提供する側、できれば個人だけではなくて、介護施設等も加わって、高齢者をご家族を助けてあげられるような仕組みができたらいと思う。

【古谷委員】

私は京都出身で、直江津に来て今年で5年目である。諸先輩方に比べると、直江津のことを知らないかもしれないが、意見をさせていただきたいと思う。

いろいろな団体の方が、この直江津区で活動されていて、すごく活発でいいと思う反面、開催日が重なっていたり、まとめる方がプレーヤーになりすぎている面があるのではないかと考えている。

お金も人も分散されてしまうので、もう少しまとまれば、もっと大きな企画ができるのではないと思う。また、人材育成や、マーケティングプロモーション、マップを作るといった観光の案内のようなことをそれぞれの団体がやられていて、それを誰かがまとめる。例えば、商工会で人材育成のところをする。観光コンベンション協会は観光の案内のようなものをもっとまとめる。イベント等も全市のイベントを把握するのは難しいかもしれないが、直江津区でやるイベント等をもっと整理して、同じようなイベント等をまとめてやるようなことをすれば、もっと人材や人手不足というところは解決されるのではないと思う。

ほかにも自転車道に青のラインがまちなかから糸魚川まで引かれていることや、まちを訪れた方が直江津駅を利用していかれることもきっかけになると思うし、ほかにもまだまだ観光資源になり得るようなものがあると思うので、もっともっと魅力のあるものにしていくことができればと思う。

通年観光と言っているが、連れてくるターゲットが、新潟県内の方なのか、長野県の方なのか、関東の方からなのか、外国からなのか、よく分からない。

佐渡金山の世界遺産登録で、少しは直江津港も有名になってきているのではないと思うが、どの方にプロモーションするのか。外国の方であればもう少し英語を使った表記なども増やしていかないといけないと思うし、東京であれば、8月にオープンした銀座・新潟情報館も活用してPRするべきだと思う。

もっとマーケティングプロモーションのようなところを強化していくことができれば、

今ある観光資源が生きてくるのではないかと思ったので、そのあたりをもっと皆さんでお話できればと思う。

【丸山委員】

資料を拝見して、皆様が観光の課題について、これから話をしていきたいというのもいいと思う。

私としては、観光とは別だが、今新聞でも話題になっている労災病院の跡地について、閉院後はどうするのかというのは、直江津区において重要なことではないかと思っている。

別の病院になるのか、違う施設になるのか、それとも更地になるのかわからないが、ここは住民の意見も聞きながら、行政や商工会議所等、いろいろなところが連携して、今後の有効活用策を考えていくべきではないかと思うし、この地域協議会も、提案や意見が言えるような形になっていけばいいと思っている。

それと、民間団体の上越地域の医療を守る会の方たちとの意見交換も私としてはやってみたいと思うし、活動の中で連携できる場所があれば、一緒にやっていければと思っている。

【磯田会長】

前回欠席の委員から一通りご発言いただいた。これからは、今出た意見について意見交換をしていきたい。関連づけるような形でご意見をいただきたい。

増田委員いかがか。

【増田委員】

五智公園を育てる会が非常に高齢化してきて大変だという話を聞いて、昨年、五智公園を育てる会とひまわり會と地域協議会で話をして、五智公園を育てる会とひまわり會がいっしょになって事業をできないかと提案させてもらった。その中では、メンバーが限られており、他の会の範囲まで活動するのは難しいとの話があったため、もっと幅広く一般の方からメンバーを集める必要があるのではないかと話をさせてもらった。

福島城を愛する会もそうだが、それぞれの団体が高齢化で活動が限られてきているという実態を考えたときに、なくなるとは困る団体なので、なんとか私たち地域協議会がバックアップするような形にもっていけないかと考えている。

古谷委員が先ほど言われたように、各団体がまちまちに活動しているという話があるが、各団体が一堂に集まり、どうするかと話し合う場がない。そういう場ができれば、

変わってくるのではないかと思います。

課題を抱えている団体の皆さんと私たちが一緒に話し合いをする。その延長線上で、団体の皆さんに集まっていたいただき、皆さんがどんなことを考えて、何に困っているのかと話し合う場があればいいのではないかと考えている。

【磯田会長】

他に意見や、今の関連の中で話はあるか。

【田中美佳副会長】

過去に何回か団体の方に集まっていたいただいてお話をさせていただく機会もあったが、ここに来るのは皆さん緊張されるようで、なかなかざっくばらんなお話が少ない。もう少しざっくばらんにアイデアを出して、こうしようああしようというふうに話し合いができたらと思う。

【関谷委員】

私は今期からなので、今までにも話があったのかはわからないが、これから話すことは直江津区よりもかなり広がった話になってしまう。

先ほど稲川委員が歴史資源の連携不足という話をされておられたが、連休等だけでも安い値段で、例えば500円くらいで、上越妙高駅から春日山、直江津地域の歴史名所を回ってまた戻る、新幹線や電車の時間に合わせた観光巡回バスがあれば良いのではないかと考えている。

その際には、移動時間を入れ込んだマップも作って、上越市を挙げて観光をどんとやればいいのではないかと考えた。

というのも、5月の連休に春日山まで遊びに行こうと思ったら、埋蔵文化センターから無料バスが出ていて、とても便利であった。無料とまでは言わないが、安い価格で、このマップを見ながら回ると、帰りの電車に間に合うというものがあるとよいと思った。

【古澤副会長】

今の関谷委員の意見に、私も賛成である。

ある観光地へ行くと、大体500円から1,000円くらいの格安のバスで回ることができる。順路があって、見学時間に合わせてバスに乗る。私も観光に行くと大体そのバスを利用させてもらう。

【稲川委員】

先ほどの増田委員の話に賛同である。また、関谷委員からお話があった、無料バスや

格安バスの意見にもすごく共感している。例えば、佐渡航路の待ち時間があるのであれば、無料バスを出して、途中には電動人力車等で五智国府を回るコースを用意するなどが思いついた。

とにかく地元の人が地域の魅力を知らないということが本当に多いと思う。地元の若い人等から魅力をSNSで発信してもらえると、パッと広がるのではないか。今お話を聞いて、だんだんとイメージが湧いてきてわくわくした。

【磯田会長】

このような意見の表明や、考え方の一端を、心に思っているのではなく話をしていただき、いろいろな方と共有して、次のステップにいかしていきたい。

さっき古谷委員が言ったように、マーケティングの手法や、そのターゲットをどこにどのように絞っていくのか、それを担える人たちをどう作っていくのかということも含めた戦略のようなものは、必ず必要になってくる。

先ほどのバスの話も、私の団体で10年ぐらい前に循環バスを走らせていろいろとやったが、空気を運ぶような感じになってしまった実態もある。今でも直江津のまちなかイベントをやるときに、バスを回遊させてはいるが、利用率が上がるというところまではなかなかいかない。直江津自体の人の数が、ほかの観光地と違ってきている中で、商業ベースにするのはなかなか難しいということもある。

直江津ならではのやり方には、どういうことがあるのか。商業ベースに乗らないところでの喜びをどう作っていくかなど、そういうことまで含めた深い議論が、この場ではできるのではないか。いろいろな意見が出てきて、どうやればそれが実現できるのか、どうしたらもっといい方向に行くのかということ、皆さんでいろいろな意見を出し合って議論していただければと思う。

まとめのようになってしまったが、これからそういう議論をさらに深めていきたいと思っている。意見交換はここで閉めさせていただきたいと思う。

次に資料No. 2について事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No. 2「地域内視察について（案）」に基づき説明

【磯田会長】

事務局から、前回からの意見交換を踏まえて、地域内の視察を考えてはどうかと提案があった。

まず、この趣旨に沿った視察をしたほうがいいかどうかの議論をさせていただきたい。意見はあるか。

【増田委員】

皆さんいろいろな活動をされているので、ほとんど知っていると思うが、うみがたりや屋台会館は知っているだろうが、五智公園や福島城跡は、改めて聞かれると行ったことがないという人もいると思う。

その辺の強弱をつけて、現地を見ておくということは必要だと思うので、知っているところは軽くさわる、知らないところはじっくり見るということでやればいいのではないかと思う。

【関澤委員】

視察に関しては、行かないよりは行ったほうがいいと思う。

どこでも言えることだと思うが、立ちはだかっている問題は高齢化だと思う。そこを解決して、若手に引き継ぐような形にもっていかない限りは、解決しないのではないかと思う。

【増田委員】

視察に関して若干補足説明をすると、過去には水族館ができる前に魚津の水族館を見学に行ったり、まちづくりや観光という面で、小諸や飯山に視察に行ったこともあった。

バスを貸し切って一日皆さんと出かけるため、バスの中でいろいろな話が出て、皆さんの気持ちがだんだん合ってきたということがある。

視察に関して、とりあえず今回はこれでいくが、今後は視察先を柔軟に考えても良いのではないかと思う。

【磯田会長】

まず視察をやる、やらないということは、どういうことを学ぶか、どういうテーマのことを掘り下げていくかということが一番重要なところで、そのための手法として視察があると考えている。

今回、特に、新しい委員が入ってこられて、直江津の課題や、今まで地域協議会の中で検討してきたことの分類等の中で、皆さんが気づいていないことや認知していないことも含めて見ていただいて、共有を図るということがまずは重要ではないかと思っている。なので、直江津の地域課題を限定的に見る視察が一番いいのではないかと思うし、皆さんと共有した上で、これから議論を深めていくという形で進められればと思っています。

る。

先ほど増田委員から出てきた、テーマごとのいろいろな部分についての深掘りの中で、いろいろな地域に行って勉強するというのは、それはそれでありだと思いが、もう少し委員の皆様の直江津区の課題認識が、腑に落ちていった先にそういうものがあるのではないかと考えている。

私としては、今回事務局から提案されたことの中で、もう少し座学的な部分、現地へ行って、見て、説明というのもありだが、例えば、三八朝市であれば、過去からの経緯や、現在の課題、検討してきた内容等を踏まえた上で、そこを見ていく。福島城もしかり、五智のエリアもしかり、そういう形で、一日という長い感じがするので、半日ぐらいがちょうどいいのではないかと考える。その辺の内容も含めて、もう少し議論をしていただきたい。

【関谷委員】

視察でなくてもいいが、希望として災害対策のところでお話をさせていただきたい。

直江津の海岸から、避難階段ができた。私が見た時にはチェーンがしてあり、登ることはできなかったが、階段を海岸から上がっていき、屏風谷の野球場あたりまでどのぐらいの時間がかかるのか、どのくらい大変なのか、高齢者がここを登れるのか、そういったことを体験させてもらえるとありがたいと思う。

【磯田会長】

今の意見は非常に面白いアイデアだと思う。タイミングが合えばそういうことも可能性としてはあると思う。

【田中美佳副会長】

私も磯田会長と一緒に意見である。前期の地域協議会でも視察をして、いろいろな方のお話を聞いて、問題点等もいろいろ聞いて、現地を見て感じたことも多かったので、新しい委員と問題点等を共有するためにも、今回のこの視察はぜひ行いたい。

【保坂委員】

確かにそれでいいと思うが、その前に、先ほど会長がおっしゃった過去からの経緯を頭の中に入れてから視察にいけば、また違った視点で見られるのではないかと。

視察の前にちょっと予備知識がほしいという意見である。

【鴨井委員】

私はコロナ前に私は福島城を愛する会に入っていた。「活動するときには声をかけてく

ださい。」と言ったが、人材不足の割には、3年間全く声がかからなかった。

古城小学校があったころは、福島城の周りも綺麗にされていたが、古城小が無くなって、今年の6月に子どもと一緒にグラウンドでサッカーをやろうと思って行ってみたら、草ぼうぼうで、もうどうすることもできないような場所になっているので、誰が管理しているかもよくわからないし、観光地として難しいのではないかと。

福島城に限らず、そのあたりをしっかりと把握して、わかった上で行ったほうが良いのではないかと思う。

【古澤副会長】

福島城には、私も行かせていただいたことがある。本当に素晴らしい。スペースがもっと欲しいぐらい。学校の中にあるが、そこには食堂か何かできるのではないかと思う。

今いろいろな候補地が挙げられていて、港町から五智までいろいろな箇所がある。五智公園も、本当に素晴らしい活動をしている。また防災の話も出ている。そのあたりも踏まえて候補地を検討していただければと思う。

【磯田会長】

各団体が抱えている問題は非常に根が深い部分もあつたりするので、なかなか簡単に地域協議会が注力していくと言えない部分もあつたりはする。それは、一つひとつの団体との対話や、関係性を、いかに地域協議会が作っていけるかというところからスタートしていかないと、なかなか次のステージには進めないというところがあると思う。そういうところのチャンネルを、しっかり協議会が作っていくということが、まず前提としてやっていかなければいけないことではないかと思っている。

【青山委員】

いろいろとお話を聞いたが、総花的な話で、この話をいくら聞いても駄目だと思った。

どれを集中的にやって行動していくかということを決めて、皆さんから同意を得て、そのことについて注力して、それを1年、2年かけて実行するような、そういう行動力のあることでないと、なかなかいい計画は出ないと思う。

今回は取り上げない課題があつたとしても、ちゃんとその次にはやるというふうに、意見を述べた方に希望を持たせるような、そんな会議にしてもらいたいと私は望んでいる。

今出ている課題を全部取り上げても、とてもではないができないと思う。

【磯田会長】

今、皆さんからお話をいろいろ聞いているのは、すぐに実現可能なものを聞いているわけではない。皆様が思っていることをまず表明してもらって、それにいろいろな意見を足したり引いたりしていきながら、どうしていったらいいのかを検討していくという、一つの課題に対して、いろいろな視点から考えていくというプロセスである。そういうことを踏まえた上で、検討の幅を広げていくのが、協議会の中で議論していく一つの有り様である。すぐに実行すればいいとか、実行していけるかどうかはまた別の話である。

そして、上越市には、地域独自の予算事業という制度があって、地域のプレーヤー、団体さんたちが、地域の課題を解決していこうとする活動に対して補助金が出る。

その他にも、市が実施すべきことがあるとすれば、市が地域独自の予算事業の中で、市がやるべき事業として実施するという可能性もある。地域協議会は、例えば、これは市がやるべき事業だと思ったときには、議論して意見書なり提案なりを、市に提出をするというプロセスになっている。

このことから、一足飛びに事業化というよりも、みんなで協議して考えていきましようというのが、協議会ということである。

【青山委員】

例えば、任期は4年あるので、1年目は何をしたいか。2年目はその中で決まったことに向かって行動していく。3年目はさらにそれを進めて、4年の最後の任期のときには、成果があがったことをアピールする。そういうお考えなのか、それとも、毎年毎年、新たな課題の発掘、議論をやっておられるのかお聞きしたい。

【磯田会長】

結果的には、毎年同じ課題を繰り返している可能性もある。一つの課題がある程度解決、あるいは、うまく地域の人たちで動いていけるような道筋ができれば、次の課題に注力して議論をしていくという形になると思う。なかなか実効性のある部分に行き着かないというのが、一つの我々のジレンマでもある。

【増田委員】

今回、皆さんから意見を出してもらったのは、皆さんがこういうことをやりたい、こういうまちにしたいという思いを持って地域協議会の委員になったので、まず皆さんに、そういう思いをお聞きしようではないか。そして思いを取捨選択するのではなくて、その思いをなんとか生かしていきたいというのが基本ベースである。

今まで地域協議会で、問題、課題を把握してきたが、リーダーシップと企画の調整が

もう一歩進められなかったということで、今回は、先ほど会長が言ったように、皆さんの意見を聞く中で、関連団体や行政も含めてしっかりと意見交換をして、地域協議会がリーダーシップをとって、一定の結論が出るように動いていきませんかという会長の提案だと思う。

【磯田会長】

その辺の話も含めて、今後また自由闊達な議論をしていきたいと思っている。

まずは、視察はするという事によいか。

(委員同意)

時間的な話になるが、少なくとも半日はかかる。きちんと見ていこうとすると、一日あってもいいぐらいの内容だと思うが、半日だとすると、お昼を食べて1時に集合したとして、1時間座学として少しお話をさせてもらい、視察に見て回るとした場合、3時間回って5時である。少し暗くなってきてしまう。皆さんに少し早めに昼食を食べていただいて、12時集合にして、そのぐらいからやれば、少し余裕を持って、半日コースでもできるのではないかと思ったりもしている。その辺のタイムスケジュールや時間的な部分についてご意見をいただきたい。

田中実委員いかがか。

【田中実委員】

皆さんにお任せする。

【青山委員】

これは平日に行うのか。

【増田委員】

平日にやるのでどうだろうか。

【田中美佳副会長】

お仕事をされている方は、難しくなる。

【青山委員】

日曜でなければ駄目という方もいるかもしれない。

【磯田会長】

平日でも大丈夫という方はいらっしゃるか。

【増田委員】

平日半日、午後からという条件でどうか。

【青山委員】

平日であれば半日、土日であれば一日。

【関澤委員】

半日では無理ではないか。

【佐藤所長】

実施することは決定いただいたので、平日か土日祝日か、またどちらに行くのかという話も含めて、会長、副会長と事務局で検討して、決定した後に、皆さんにご案内を差し上げるというような形でいかがか。

【磯田会長】

今、事務局提案があったが、それでよいか。

(委員同意)

では、そのような形で進めさせていただきたいと思う。

他に意見を求めるがなし。

- ・次回協議会：10月15日（火）午後6時30分から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。